



Finnish Institute in Japan  
フィンランドセンター



フィンランドセンター  
年次報告 2020



# 所長ご挨拶

一晩でのデジタル化、持続可能な発展と模範となるチーム・フィンランドの協力

人文化ウィークのイベントやザリガニパーティー、テラスではフィンランドダンス講座も開催しました。

フィンランドセンターは、2020年3月に一晩で急遽オンラインへの移行をしました。外出自粛の要請の翌日には当センター職員同士でヴァーチャルコーヒー休憩を始めました。大切だったことは、各職員の仕事の状況を確認することだけでなく、より良い状況に向かってチームとして共に困難な状況に立ち向かう一体感でした。

2020年は、フィンランド文化・学術機関との連携を強化した1年でした。フィンランドセンターは、アーティストを支援し、彼らの国際的な活躍をTogether Aloneプログラムの開始を通じて促進しました。また当センターは、このプロジェクト以外にも他国にある3つのフィンランドセンターと共にWild at Heart(ワイルド・アット・ハート)デザイン展覧会を開催しました。フィンランドセンターの文化プログラムのうち最も大きな催しとしては、トウコ・ラークソネンによるアート作品の日本初公開となったTom of Finland(トム・オブ・フィンランド)展でした。東京及び大阪で行われた展覧会の模様は、日本、フィンランド、スウェーデン、そしてアメリカなどの様々なメディアでも取り上げられました。

フィンランドセンターの活動がオンラインに移行したことで、2018年のスローガン「New Openings」は思わぬ形で実現される結果となりました。それと同時にチームの柔軟性と実行力が試されました。オンラインへの移行は苦労を要するものですが、聴衆の皆さんもそれに対応する形でご参加いただいたことを嬉しく思います。その結果、当センターでは世界中から参加してくださる新しい参加者層を開拓することができました。Zoomを通じて、フィンランドの持続可能な建築素材、芸術史、アーティストトーク、Tom of Finland展覧会関連プログラムなど様々な講義を行い、フィンランドや日本、アメリカなどの専門家の皆様にご登壇いただきました。その他にもオンラインにて5時間にわたる編み物マラソンや歌のワークショップを開催しました。

フィンランドセンターは、東京のチーム・フィンランドの一員として積極的に関与してきました。この協力体制はよく計画され、切れ目がなく密接なものであり、それはヘルシンキ本部においても認識されました。フィンランドのビジネス連盟(EK)により「日本のチーム・フィンランドの協力体制における榮譽」を与えられ、「駐日フィンランド大使館、ビジネスフィンランド、フィンランドセンター、在日フィンランド商工会議所の協力は模範的である」と称されました。

秋になると日本のコロナの状況を踏まえてハイブリッド形式でのイベントを駐日フィンランド大使館敷地内に建てられたメッツァ・パビリオンにて限定的に行いました。フィンランドセンターは、秋のイベント開催のためにビジネスフィンランドと共にメッツァ・パビリオン使用契約を締結し、10週間で27件のイベントを行いました。仕事と家庭生活におけるウェルビーイングセミナー、高齢化社会セミナーの他、建築セミナー、女性のエンパワーメントセミナーなどを開催しました。また、素晴らしい環境のメッツァ・パビリオンでワイルド・アット・ハート展覧会、ヘイニ・リータフタ陶芸展、そしてヘリ・プロフィールドの「サウナ・ピープル」写真展の他、スウェーデン系フィンランド

フィンランドセンターの目標は高く定められましたが、当センターだけではなく他団体の皆様のお力添えがあり達成することができました。この場をお借りし、フィンランドセンターを代表してご支援・ご協力いただいた皆様へ心よりお礼申し上げます。皆様の貴重なご支援、励ましを力に〜共に、未来を信じ、皆様のお声に耳を傾けながら〜今後とも当センターの活動に邁進して参ります。

フィンランドセンター所長  
アンナ=マリア・ウィルヤネン



上: Tom of Finland展で同僚のマルクス・コッコ、キュレーターを務めたシャイ・オハヨン、アンナ=マリア・ウィルヤネン(写真:フィンランドセンター)

下:協力は力なり。右から、Novita社のサリ・ノードルンド、フィンランドセンター所長アンナ=マリア・ウィルヤネン、そしてNovita社アンナ=マリア・ケロ(写真:フィンランドセンター)



# 目次

所長ご挨拶	3
コミュニケーション	6
社会変容が多様な学術プログラムの中核を成す	8-9
日本社会における変化プロセスに関する研究	10-11
文化プログラム	12-15
交流	14
高等教育分野における協力	16-17
編み物クラブ(オンペルセウラ)	18
Hallå Tokyo! スウェーデン系フィンランド人文化ウィーク	19
フィンランドセンター職員紹介	20
謝辞	21

上: 間隔を保ちながら笑顔を浮かべるフィンランドセンター職員 (写真:フィンランドセンター)  
 下: Tom of Finland展の開幕と平等に関する権利を祝う東京のチーム・フィンランドのメンバー (写真:フィンランドセンター)

# コミュニケーション

フォロワー数:

Facebook:

5138

Instagram:

3155

Twitter:

2913

フォロワー増加率(前年比): 32.6%

メディア掲載例:

Reality & Fantasy: the World of Tom of Finland: 69件

ワイルド・アット・ハート～フィンランドのモダンデザインとアートのコレクション展示会は、日本のVOGUE誌等に取り上げられました。

VOGUE JAPAN

FASHION BEAUTY CELEBRITY LIFESTYLE COLLECTION HOROSCOPE CHANGE

毎日新聞 検索 宅配申込 天気 教養 朝刊 刊行物

トップ 社会 政治 経済 国際 サイセンス スポーツ オピニオン カルチャー ライフ 教育 地域

総合 事件・事故・裁判 プライム司法 気象・地震 話題 皇室 LGBT 訃報 人事 東日本大震災

LIFESTYLE / NEWS

## フィンランド大使館に「メツア パビリオン」が出現! デザイン展が開催中。

BY VOGUE JAPAN  
2020年10月8日

フィンランド大使館敷地内に併設された「メツア パビリオン(Metsä Pavilion)」にて、フィンランドデザイン界「ワイルド・アット・ハート(WILD AT HEART)」が2020年10月12日(月)まで開催中だ。



## 同性愛が処罰された時代に描かれたゲイアート「トム・オブ・フィンランド」 大使館が発信するまでの歴史

会員限定有料記事 毎日新聞 2020年9月22日 08時00分 (最終更新 9月22日 14時17分)

フィンランド > 東京都 > 速報 > 話題 > 社会 >



同性愛に偏見の目が向けられていた時代に、官能的に描かれた筋肉質な男性たち――。北欧・フィンランドで、ゲイの男性の開放的な姿を描いた画家「トム・オブ・フィンランド」ことトウコ・ラークソネン(1920～91)。彼の生誕100周年を記念する日本で初めての個展が東京・渋谷パルコの「GALLERY X」で開かれている。共催したのは日本国内で学術や文化にまつわる活動をするフィンランドセンターと在日フィンランド大使館、パルコ、TOM OF FINLAND財団など。46～89年に製作され、抑圧と闘ったエロチックな作品30点が並ぶ個展を、大使館がなぜサポートし、発信するようになったのか。ここまでに至る歴史をたどった。

HOME / CULTURE / 「渋谷パルコ」でトム・オブ・フィンランドの日本初個展が開催、LGBTQの権利を訴えた作品

### ゲイを描いたアートでLGBTQの権利を訴えたフィンランドの作家トム・オブ・フィンランド。2020年9月18日(金)から10月5日(月)まで、「渋谷パルコ」地下1階の「GALLERY X」にて、日本初の個展『Reality & Fantasy The World of Tom of Finland』が開催される。

LGBTQコミュニティのみならずアート界でも影響力のある、フィンランド出身の作家トム・オブ・フィンランド。今回、日本初となる個展『Reality & Fantasy The World of Tom of Finland』が、「渋谷パルコ」地下1階の「GALLERY X」にて開催される。

トムの生誕100周年にあたる今年、日本初公開となる1946～1989年の間に製作された30点が展示される。彼の名が一躍有名になるきっかけとなった、『Physique Pictorial』の表紙を飾ったドローイングなど、誌面で掲載された作品も数多く並ぶ。

また、作品を通して彼の多彩な才能に注目すると同時に、LGBTQの権利を世界中に押し進め、ゲイ・カルチャーの創成期を担ったレジェンドとしての一面も紹介。



TABI LABO

## SPUR.JP

FASHION BEAUTY CULTURE JEWELRY & WATCH WEDDING VIDEOS

ニュース 特集 トピックス コラム セレブ ひりっぷお ぬやつ部 フェムテック調査団

CULTURE&LIFESTYLE NEWS

2020.09.15

### 祝・生誕100周年! ゲイ・アートの先駆者、トム・オブ・フィンランドの日本初個展が渋谷パルコ BIF GALLERY Xにて開催

ゲイを描いたアートでLGBTQの権利を訴えたフィンランドの作家、トム・オブ・フィンランドの日本初個展『Reality & Fantasy The World of Tom of Finland』が、2020年9月18日(金)～10月5日(月)、渋谷パルコ BIF GALLERY Xにて開催される。自由と社会の寛容を促した歴史的作家のキャリア全体を網羅しつつ、LGBTQのレジェンドとしての一面も紹介する、必見の展覧会だ。

男性の身体を官能的でエロチックに描いた作品の数々でLGBTQの権利を訴えたフィンランドの作家、トム・オブ・フィンランドの日本初個展『Reality & Fantasy The World of Tom of Finland』が、2020年9月18日(金)～10月5日(月)、渋谷パルコ BIF GALLERY Xにて開催される。

pen Latest Special Feature News Topics From Creators Tokyo



FASHIONSNAP.COM



メツア パビリオンで展示会「ワイルド・アット・ハート」が開催、フィンランドデザインの多様性を紹介

2020年10月02日 00:17 JST



2020年にフィンランドセンターが参画した イベント 記事の切り抜き



## 社会変容が多様な学術 プログラムの中核を成す

現代社会における挑戦と環境への適応  
がフィンランドセンターのイベントでの  
活発な議論に繋がる

2020年10月22日  
持続可能な素材セミナー

フィンランドセンターでは、学術プログラムを通じてフィンランドと日本の学術協力における対話を促進させ、両国における最新のトピックについての国際コンファレンスやセミナーを開催しています。

フィンランドセンターではレポートを作成し、各種講義を行ったり、学術コンファレンスやイベントに参加したりしています。また、独自の研究や専門家的視点から学術に関する照会事項にお答えしたりもします。

フィンランドセンターの2020年のプログラムでは、持続可能な素材、人工知能、女性の地位、高齢化問題、ウェルビーイングそしてフィンランドの建築に関するトピックを扱う学術コンファレンスやセミナーを開催しました。感染症の流行により当初の日程を本年後半に変更することとなりましたが、AIに関するセミナーを除いては規模を縮小して無事に開催することができました。今日のトピックに関する議題に関して、メッツァ・パビリオンで行われたハイブリッド形式のイベントでは活発な議論が繰り広げられました。コンファレンスとセミナーの開催については、学術領域におけるより広域な国際的ネットワークを広げ、早稲田大学の渡邊大志教授との共同プロジェクトを始め、新し

い研究アイデアやプロジェクトに繋がりました。フィンランドセンター主催のフィンランド建築セミナーから派生したプロジェクトは日本の建築、フィンランドのナショナルロマンス主義、アートとウェルビーイングの混合プロジェクトとなっています。研究結果は、2021年末に発表予定です。

フィンランドセンターは、館内にてフィンランドまたは日本の研究者が研究をしていただける場所を確保しています。コロナ禍が収束へと向かった際には、募集をかける予定です。学術分野における国際的な交流は、研究者向けTelepART助成（学術TelepART）を通じて促進されています。

フィンランドの学術、技術革新、そして教育は日本にとって関心のある領域です。それらは「Schools on the Move (スクール・オンザ・ムーブ)」プロジェクトに組み合わされています。日本におけるパイロットプロジェクトを行うために、フィンランドセンターはLIKES身体活動健康研究センターと契約を結びました。当プロジェクトでは初・中等教育課程にある学校と協力し、フィンランドの教育の日本への輸出を支援します。■



上：フィンランドセンターは、メッツァ・パビリオンにてチーム・フィンランドデイに参加（写真：フィンランドセンター）

下：協力パートナーであるNovita社による講演では、エコロジカルなウールと毛糸の生産サイクルについて語られました（写真：フィンランドセンター）

# 日本社会における変化 プロセスに関する研究

ハイブリッド形式のイベントやオンライン  
講座のテーマはウェルビーイングと  
持続可能な発展

2020年10月29日  
高齢化社会セミナー

フィンランドセンターの学術分野の中心となったのは、人生、仕事、環境、高齢化、そして女性のエンパワメントに関するウェルビーイング関連のトピックでした。

当センターの学際的な研究プロジェクトにも1年を通じて引き続き取り組みました。当センター所長の研究プロジェクトは、女性のウェルビーイングでしたが、家庭や社会、仕事におけるウェルビーイング、日本の職場環境における改善への提言、フィンランドと日本における女性の社会的地位の変遷にも広がりました。本件に関する書籍も2021年に日本語で出版予定です。また当センターは、文化プログラムの一環として毎月行われる編み物クラブを通じて女性の役割を強化・促進しています。当クラブでは、編み物をしながらフィンランドの女性に関する歴史や文化、企業や大学、そして政界における女性の活躍についてのプレゼンテーションを行っています。

また、フィンランドセンター2件目の研究プロジェクトは駐日初代フィンランド大使であるグスタフ・ヨン・ラムステッド (1873-1950年) の社会的ネットワークについてであり、こちらも学際的

な研究となっています。フィンランドと日本両国関係、人的・文化的歴史についての学際的研究のほか来年、自治領政府樹立100周年を迎えるオーランド諸島についても取り上げます。

高齢化社会に関する研究プロジェクト及びフィンランド・日本間における比較については2018年以降、フィンランドセンターの研修生が研究テーマとして取り組んでいます。当センターはまた、チーム・フィンランドの一員として平等を促進するための案件にも携わっており、この関連で高齢化社会に関するプロジェクトや「平等な老いに向かって」をテーマとするセミナーも行っています。

フィンランドセンターは、フィンランドの学術、文化、高等教育分野において日本における不可欠な役割を果たしており、それは依頼される講義や照会、そして専門的立場からの助言を求められる数にも表れています。 ■



上：高齢化社会セミナー「平等な老いに向かって」をハイブリッド形式で10月に開催  
左右：坂東眞理子総長と起業家の迫村裕子がメッツァ・パビリオンで行われた女性のエンパワメントセミナーに登壇  
中央：フィンランドセンター所長アンナ＝マリア・ウィルヤネンが川上由緒によるSilkkiブランドの持続可能なエコロジーについてのプレゼンテーションのオープニングを務めた



# 文化プログラム

フィンランドセンターでは、2020年に31の文化イベントを企画・共催・後援しました。

毎月編み物クラブやフィンランド語講座、スウェーデン系フィンランド人文化ウィークを開催しました。

## イベント

フィンランドセンターの文化の領域における活動は、1月に行われた3つのイベントで幕を開けました。2019年後半から引き続き、フィンランドの暮らしと文化を紹介する「Life in Finland フィンランドの暮らし展」を東京・新宿のLiving Design Center OZONEで行いました。また、フィンランドセンターは写真家のアニタ・イェンセンによる写真展「人生というドラマが明かされる瞬間」を東京都立中央図書館で開催しました。イヴァナヘルシキのSuperwoodのタバがスパイラル（東京・表参道）のレストランCAYにて行われ、イヴァナヘルシキのファッションデザインのほか、パオラ・スホネンの短編映画、アーティストトーク、そしてLone Deer LaredoとNew Silver Girlのバンド演奏もありました。

フィンランドのWorld Art Tokyo展で写真家のカロリーナ・ヘルベリが登場する予定でしたが、イベントは中止となりました。感染症の流行により、フィンランドセンターのイベントは迅速にオンラインでの開催に切り替えられました。オンラインレクチャーシリーズでは、フィンランドの絵画、デザイン、建築そしてテキスタイルについて紹介しました。2019年に東京・スパイラルで

行われたカトリーナ・ハイカラによる描画パフォーマンス「ソーシャル・ポートレートクラブ」もオンラインで行われました。また、他のフィンランド文化・学術センターと共同でTogether Aloneプロジェクトによりコロナ禍におけるアーティストの支援や国際協力を促進させることにつながりました。募集については20の異なる分野でのプロジェクトを選出しました。2021年も引き続き継続して行う予定です。

当初、春に開催予定で秋に延期された展覧会「Reality and Fantasy: The World of Tom of Finland」がトウコ・ラークソネンの生誕100周年を記念して開催されました。日本初開催となったトム・オブ・フィンランド展は、トム・オブ・フィンランド財団と駐日フィンランド大使館、The Container Gallery及びPARCOとの協力で実現し、展覧会は東京・渋谷及び大阪にあるPARCOのギャラリーにて開催されました。フィンランドセンターは、6回のオンラインレクチャーを開催したほか、渋谷パルコにて日本における性的少数者の権利について議論を展開しました。

フィンランドの現代デザイン・アートを紹介する展覧会「Wild at Heart (ワイルド・アット・ハート)」展がドイツ、ハンガリー及びストックホルムにあるフィンランドセンター、そしてハビタレとの協力で開催されました。展覧会は、ウィーン、ブダペスト、ストックホルム、ヘルシンキで行われたほか、東京では新設されたメッツァ・パビリオンのオープニング展覧会として開催されました。展覧会のキュレーターを務めたテロ・クイトゥネンが展覧会についてのプレゼンテーションのほか、アーティストのミッラ・ヴァーハテラが自身のデザインワークについてオンラインで語りました。



フィンランドセンターはまた、メッツァ・パピリオンでヘイニ・リータフタとヘリ・プロフィールドの展覧会を行いました。リータフタの陶芸のほか、テキスタイルや彼女の日本市場向けに作られた風呂敷も展示されました。プロフィールドの「サウナ・ピープル写真展」は、フィンランドのサウナ文化を記録したものでした。両アーティストは、オンラインでのアーティストトークを楽しみました。パピリオンではまた、フィンランド民族ダンスコースを開催しました。梶原サツラによる4回にわたるクラスは好評で、2021年も継続して行います。

フィンランドセンターは、「アイノとアルヴァ 二人のアルト」展を後援し、1年を通して東京のギャラリー・エー・クウッドと竹中大工道具館で行われました。また、鳥取県立博物館でザ・フィンランドデザイン展のほか、岐阜県現代陶芸美術館及び新潟県立万代島美術館での「ルート・ブリュック 蝶の軌跡」展を後援しました。フィンランドセンター好評の編み物クラブは展覧会に関連し、鳥取でも開催しました。

また当センターでは、オンライン短編映画祭「Animated Spirits」の開催を支援し、エッリ・ブオリネンの『Sore Eyes for Infinity』が選出されたほか、東京でのフィンランド映画祭アンコールを後援しました。EU文芸フェスティバルでは、フィンランドセンターはフィンランド代表の作家マリアヌ・バックレンを支援しました。彼女はオンラインで行われたEUNIC Japanのパネルディスカッションに参加し、新作小説「Diamantvägen」の一部を紹介しました。

## 交流

2020年初めにTelepART助成を受けてロイスケ・アンセンブレによる劇『BabySauna』が東京・未来フェスティバルにて上演予定でしたが、フェスティバルとパフォーマンスが中止となりました。

Almost Perfectでのレジデンス滞在については、写真家のエンミ・ニエミネンが日本・フィンランド間のフライトの関係で、予定していた滞在期間の途中での帰国となったものの、レジデンス滞を実施しました。遊工房での作家レジデンス滞在では、ジナイダ・リンデン、アヌ・カーヤそしてサミ・ヒルボが選出されたものの、東京への渡航が叶わず、同様に写真家のノガミカツキによるフィンランド・エスポーでのレジデンス滞在中も中止となりました。Y-AIRとHisomでのレジデンス滞在はアーティストが選出されることなく中止となりました。パイオアート&サイエンスのレジデンス滞在では、2020年にヨハンナ・ロトゥッコが、信楽の陶芸レジデンスにはエミル・リューティッカが選ばれ、彼らのレジデンス滞在は2021年に延期されました。■



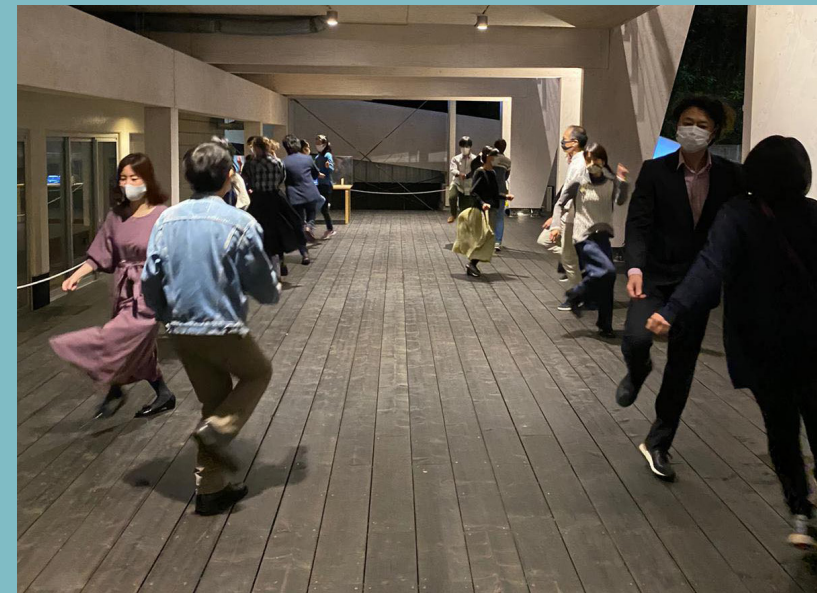
ヘリ・プロフィールドの「サウナ・ピープル」写真展で通訳を務めるアカデミックリサーチコーディネーターの原あかりとプロジェクトマネージャーのパン・ヤルヴィネン (写真:フィンランドセンター)

↑日本初開催の「Tom of Finland (トム・オブ・フィンランド)」展が東京で開催 (写真:フィンランドセンター)

→梶原サツラを講師に迎え、フィンランドダンス講座でフィンランドの伝統的なダンスを学ぶ (写真:フィンランドセンター)

✓ミール・ウェスティンの「Keep in Touch Comic Journal」は、唯一のTogether Aloneプロジェクトでした (写真:ミール・ウェスティン/keepintouchcomic.com)

↓ Superwoodイベントで演奏するLone Deer LaredoとNew Silver Girl (写真:フィンランドセンター)





# 高等教育分野における協力

フィンランドセンターの高等教育分野におけるイベントには、年間789人の参加がありました。

ほとんどのイベントはオンライン開催となったことで、例えばアメリカ、イギリス、韓国、カンボジア、デンマーク、ドイツ、フィンランド、香港そしてマレーシアといった日本国外からの参加も数多くありました。

## フィンランド留学説明会ウェビナー

フィンランドセンターは、フィンランドの高等教育に関する全8回のウェビナーを4月から11月まで毎月継続して開催しました。毎回異なるトピックを扱い、留学先の選定や出願方法など実践的な内容について情報提供を行いました。説明会では概要紹介のほか、チーム・フィンランドや留学同窓会ネットワーク、フィンランドの大学等からのゲストスピーカーのほか、質疑応答が行われました。

秋のウェビナーシリーズでは、初めてのハイブリッド形式(メッツァ・パビリオンでの対面およびオンライン)で行い、実際にフィンランド留学を経験した方々にご登壇いただきました。また、プリティッシュ・カウンシルの試験担当者を招いて留学に必要な英語力に関するお話もいただきました。

「留学説明会に参加したことで背中を押してもらい、フィンランド留学への決意に繋がりました」

(留学説明会参加者の声)

## 欧州留学フェア

フィンランドセンターは、11月にオンラインで行われた欧州留学フェアに参加しました。フィンランド留学への関心を継続して集めており、フィンランドセンターによるプレゼンテーションでは、フィンランドの高等教育制度や留学生の出願手順などを説明しました。日本国内外からの参加者があり、51%の参加者が現役大学生、30%が社会人、4%が高校生以下でした。

## 日本の大学を訪問する「ロードショー」

フィンランドセンターでは、2018年より継続して日本の大学を訪問しています。目的は、フィンランドの大学に関する情報提供のほか、教授や国際センター関係者と議論を行うことで日本・フィンランドの大学連携を図ることです。ほとんどの訪問をオンラインに切り替えて行いましたが、山村短期大学、明治大学、青山学院大学、津田塾大学、そして芝浦工業大学を訪問しました。コロナ禍においても留学を希望する日本の学生は多く、また日本の大学はフィンランドの高等教育機関との連携の強化を望んでいます。



## 他組織との連携・ネットワーク

フィンランドセンターは、2020年も所属するネットワークを強化・拡大してきました。フィンランドセンターは、文部科学省主導のトビタテ!留学Japan!との連携を図っています。当センターでは、フィンランドの教育分野での専門性をさらに強めており、その結果として様々な講義への依頼も増加しつつあります。

フィンランド留学に関する個別相談数も2019年度比で倍増しており、フィンランド留学を希望する人々への「サポート窓口」としての役割を担っています。

## フィンランド語講座

フィンランドセンターは、フィンランド語の初級クラス、ディスカッションクラス、中級クラスを開催しました。講師は、橋本ライヤと奥田ライヤが務めました。講座は年の初めにはフィンランドセンター内で行われ、その後オンラインで継続しました。秋には、メッツァ・パビリオンにて行いました。■

「フィンランド語クラスで過ごす時間は私にとって幸せです。大好きな言語に触れることが貴重な機会です」

(フィンランド語講座 受講者の声)

上:フィンランドセンター初の高等教育に関するハイブリッドイベントを10月に開催(写真:フィンランドセンター)

下:フィンランド語講座はオンラインで開催し、秋からメッツァ・パビリオンにて開催(写真:フィンランドセンター)



メッツァ・パビリオンにて50名の編み物クラブ参加者とともに(写真:フィンランドセンター)



フィンランドセンター毎年恒例のザリガニパーティーをメッツァ・パビリオンで開催(写真:フィンランドセンター)

## 編み物クラブ

フィンランドセンターで好評の編み物クラブ(オンペルセウラ)を継続して行いました。参加者が多いため2つのグループに分かれ、オンラインまたはハイブリッド形式で開催し、21回の編み物クラブで計656人が参加しました。毎回、それぞれの編み物テーマがあり、併せてフィンランドの著名な女性に関するプレゼンテーションのほか、コーヒーとフィンランドのお菓子・軽食を楽しみながら会話も楽しみました。秋には、編み物クラブはオンラインで行われたのち、メッツァ・パビリオンでのハイブリッドで行いました。

編み物クラブで使用する全ての毛糸、編み棒、編み図はフィンランドセンターのスポンサーであるフィンランドの製糸メーカーNovita社よりご提供いただいています。また、年末には当センターはフィンランドのコーヒーブランドであるSLURP社と契約を結び、編み物マラソンで美味しいコーヒーをお贈りいただきました。■



## Hallå Tokyo! 2020

3回目となるスウェーデン系フィンランド人文化ウィーク「Hallå Tokyo」が「伝統、食、そして楽しみ」をテーマに5日間にわたって開催されました。アンナ・ヤ・リーサ(Anna ja Liisa)のデザインと日本での監修を務めた今泉幸子の登壇で幕を開けました。デザイン会社のアンナ・ヤ・リーサは、インスピレーションの源泉としての地元の重要性の他、今後の仕事、将来の展望についてメッツァ・パビリオンで話しました。講演の後、参加者はスウェーデン系フィンランド人に伝わる伝統料理を楽しみました。火曜日には、Pals社の共同創設者であるロビン・ボルクストロムが16歳で起業した会社のことや起業家としての日常について話しました。水曜日には、作家マリアヌ・バックレンが彼女の作品や作家活動の過程そして日本への愛について語りました。

木曜日に行われた、ドリンクソングのオンラインワークショップでは、スウェーデン系フィンランド人文化ウィークのクライマックスである毎年恒例のザリガニパーティーの雰囲気すでに醸し出していました。数秒でチケットが完売したザリガニパーティーはメッツァ・パビリオンで行われました。参加者の安全性を考慮した運営をするため、雰囲気損なうことなく特別な手配をしました。■

写真は編み物クラブの楽しい雰囲気、秋の編み物の他、春の喜び編み物コンテストのイメージ写真(写真:フィンランドセンター)

1: 今泉幸子がアンナ・ヤ・リーサデザインと共に月曜日のイベントに登壇(写真:フィンランドセンター)  
2, 3: フィンランドセンター恒例のザリガニパーティーは前例のない感染症対策を実施しました(写真:フィンランドセンター)



写真:フィンランドセンター / 大崎晶子

## フィンランドセンター職員紹介

所長  
アンナ=マリア・ウィルヤネン

文化プロジェクトマネージャー  
パシ・ヤルヴィネン

学術コーディネーター  
原あかり

オフィスマネージャー  
岡本留実

研修生  
ノーラ・エルヴェリウス  
(2020年1月1日～3月31日)  
ラウリ・セロネン  
(2020年2月1日～11月30日)

## 謝辞

フィンランドセンターは、以下の皆様にご支援・ご協力をいただいています。

Opetus- ja kulttuuriministeriö



Embassy of Finland  
Tokyo



BUSINESS  
FINLAND

fccj

NOVITA

フィンランドセンター財団

フィンランドセンター財団は、1998年に設立した非営利団体のフィンランドの財団です。ミッションは、憲章に則りフィンランド文化、学術、高等教育、技術と経済に関する理解を深め、これらの分野における日本とフィンランドの協力を促進することです。フィンランドセンターは、とりわけ学術、文化そして高等教育分野における発展や協力のニーズを認識・予想し、潜在的な協力体制構築に向けて支援します。フィンランドセンター財団は東京にあるフィンランドセンターを維持しています。

2020年のフィンランドセンター(日本)の理事会員は以下の通りです。


ピルヨ・ヒーデンマー	(理事長)
アンティ・アハラヴァ	(副理事長)
マルック・キヴィコスギ	
ニクラス・サンドラー	
ヨルマ・マッティネン	
マルヤ・サカリ	

フィンランドセンター財団は、ティア・サーリネンが財団委員長として勤務しました。

フィンランドセンター代表団

代表団には32の会員がいます。ヨルマ・マッティネン教授が議長を務めており、次の高等教育機関や学術・研究機関、産業界、企業を代表しています。

Aalto-yliopisto	Kemira Chemicals Oy
Helsingin yliopisto	Nokia Oyj
Itä-Suomen yliopisto	Outokumpu Oyj
Jyväskylän yliopisto	Tallink Silja Oy
Lapin yliopisto	Designmuseo
LUT-yliopisto	Suomen Arkkitehtiliitto
Oulun yliopisto	Finlands Arkitektförbund ry SAFA
Svenska handelshögskolan	Suomen Kirjailijaliitto ry
Taideyliopisto	Suomen Kulttuurirahasto
Tampereen yliopisto	Taiteen Edistämiskeskus
Turun yliopisto	Japan Finland Society
Vaasan yliopisto	Suomalais-Japanilainen Yhdistys ry
Åbo akademi	
Suomen akatemia	
Helsingin kaupunki	
Business Finland	
Tieteellisten seurain valtuuskunta	
VTT	



  
Finnish Institute in Japan  
フィンランドセンター

フィンランドセンター  
〒106-8561  
東京都港区南麻布3-5-39  
メール: [info@finstitute.jp](mailto:info@finstitute.jp)  
電話: +81-(0)3-5447-6037